

令和2年度はコロナウイルスの影響で、予定していた研修や視察の多くが中止となってしまいました。そのかわりにオンライン研修会が主流となり、また事業所内での学習会にも力を入れました。

## 令和2年度実務研究発表会

### 『想いを形にするために』 ～ICFを活用して可能性を広げる～

当事業所では、利用者が想いや希望を職員に伝えてもなかなか実行につながらないという課題に対して「想いを形にするシート」を考案しました。このシートは、想いの聞き取りから考えられる支援内容、実施結果、課題までを順立てて記録しながら取り組むことができる構成になっています。また、利用者の希望をかなえるまでの過程を可視化することにより、複数の職員が情報共有しながら取り組むことができるという効果も期待して作成しました。

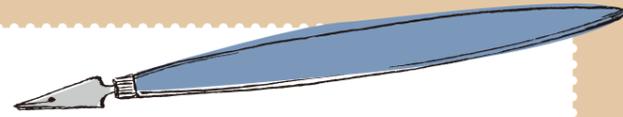
「お小遣いを持ちたい」というHさんの想いをかなえる取り組みを紹介します。シートに記録しながら一緒に考え、結果として1ヶ月1,000円のお小遣いを持つことが実現できました。その後、お小遣いを持つ目的について聞き取りを行うと

「ひとりで自由に買い物に行きたい」という新たな目標がみえてきました。最初の想いであった「お小遣いを持つこと」は実現したことでHさんの現在の活動となり、新たな目標の「ひとりで自由に買い物に行くこと」は社会参加につながっていくと考えられます。これらが「ICF」の視点と重なることに気づき、ICFのフレームに落とし込んで全体を整理しました。

想いを実現した先にある生活の広がりについて、ICFを活用したことで社会参加の可能性をイメージすることができました。同時に、どこにアプローチすれば達成できるのかという課題も明確になることが分かりました。

今後も、利用者の想いを停滞させないよう「想いを形にするシート」を用いた取り組みを継続しながら、取り組み過程においてICFを活用し、想いの先にある可能性につなげていきたいと思っています。

[グループホーム支援センターなかやま  
支援員 佐藤 陽子]



## JICリスクマネジメント研修

### ～風水害に備えるために～

この度、東北地区知的障害者福祉協会主催で株式会社ジェイアイシーによる、風水災害時のリスクマネジメント研修にオンラインで参加させて頂きました。

風水災害においては、障害者支援施設向陽園の立地条件として本沢川が隣接しており、数年前に床上浸水、昨年は浸水の危険があり法人内の事業所に入所全利用者が一晩避難した経緯があります。台風、大雨の予報が出されると常に緊張感がある状況です。

今回の研修においては、実際の事例を通して多くの事を学ぶことが出来ました。具体的には、避難経路、避難場所、備蓄の問題、ライフラインの確保など多くの事を考えさせられました。特に避難開始のタイミングにおいては非常に迷う部分です。安全性を考え早めの避難が原則ではありますが、行動障害がある利用者さんが多い当園

においては、人手と時間が掛ります。避難開始と水位の状況を計算し、的確な判断が求められます。夜間においても時間により判断が遅れるケースもある為、様々な想定をしておいたBCP作成が必要であり、その重要性を感じました。また、災害に備えての情報収集の仕方もあるいろいろな機関から情報を得ることが出来、今後役に立てていきたいと思っています。

保険の内容についても具体的なお話を頂き、当園においても、企業財産保険の見直しを行い水災も保障されるプランに変更しています。今後も利用者さんの安全を最優先し、BCPの見直し、保険の見直しを継続して行っていきたいと思っています。

[向陽園 園長 村井 弘伸]



## 愛泉会の各委員会より

## 権利擁護・意思決定委員会報告

障害者虐待防止法(平成24年10月施行)による令和元年度の障害者虐待事例への対応状況が厚生労働省より公表されています。障害者福祉施設従事者等による障害者虐待の相談・通報件数は2,761件、そのうちの547件が虐待と判断されています。さらに被害者数を見ると、734人と報告されています。私たちはこの報告をどう捉えるべきでしょうか。

権利擁護・意思決定支援委員会の取り組みの一つに、年2回実施している行動規範自己チェックがあります。行動規範のチェックシートを用いて、自分自身の日々の支援やサービス提供のあり方を振り返ります。この振り返りでは、行動規範チェックシートを事業所の職員がそろって読み合わせを行い、お互いに指摘し話し合いながら実施していることも特筆すべきところです。そして、各事業所で自分たちの課題について話し合い、

より良い支援やサービス提供に向けて取り組んでいます。これらのことは、今までの委員会活動の実践の中で生まれてきたものであります。

昨年度末に行動規範のチェックについての報告会が行われました。どのようにしてより良い活動や支援を行っていくか、その人らしい暮らし方を送っていただくためにはどうしたら良いかなどについて多くの情報交換、話し合いがなされました。

今年度の委員会でも行動規範チェック、権利擁護、意思決定支援などに取り組みながら「権利擁護のその先へ」を目指していきたいと思っています。

[権利擁護・意思決定委員長 寺西 朋宏]

## 日々是好日

愛泉会で働いて...

愛泉会で働いている職員をリレー形式でつないでいき、日々感じている事、思っている事を語っていただきます。

向陽園 支援員  
富塚 雅



向陽園で支援員として働き始めて、3ヶ月経ちました。毎日の業務の中で学ぶことが多くとあるなど日々感じています。

初めは、利用者や先輩職員とどう関わったら良いのか戸惑いがあり、緊張の毎日でした。今は、緊張はまだありますが利用者の個性に合わせた声かけや対応が身につくように思います。先輩職員とはわからない事や不安なことを聞き、共有していくことも利用者の為にも大切だと思いました。コミュニケーションを大切にして業務を行っていきたくです。まだまだ多くの事を吸収してこれからの支援を行っていきたくです。

放課後等デイサービス  
月のひかり 支援員  
菊地 遥



私は昨年度から放課後等デイサービス・ショートステイサービスマスのひかりで支援員として勤務しております菊地遥(はるか)と申します。村上所長をはじめ先輩方、可愛い後輩職員や子どもたちに囲まれながら、毎日楽しく勤務させて頂いています。

子どもたちの「ただいま!」「今日も楽しかった!」「はるか〜ん!」の言葉が原動力となり、それと同時にやりがいを感じております。子どもたちの成長を実感する時なんて疲れが吹っ飛びます。大変なご時世ではありますが、全職員が利用されている子どもたちの成長、安全を一番に考え、同じ目標に向かって日々頑張っています。

創造企画課 | 支援  
塚田 実央



昨年4月に愛泉会に入職し、今年で2年目となりました。1年目は業務をこなすことで精一杯だったものの、利用者の皆様と過ごす日々はとても楽しく充実したものでした。

2年目となる今年は、法人独自の調査研究事業や研修運営等にも携わらせていただいております。

日々の仕事をとおして得る学びや気づきはとても多く、昨年の経験・反省を踏まえながら試行錯誤の毎日ではありますが、職員の方々の皆様のお力添えもあり、何とか業務を遂行することができています。

昨年度よりもさらに学びの多い1年となるよう、また少しでも成長することができるよう努めてまいります。